



新潟
から

ジャガイモそうか病にはモミガラもいい

三浦大弥

先月の10月号にも載っていましたが、「ジャガイモのそうか病に米ヌカがいい」という記事



が『現代農業』にはよく登場します。十日町市の清水ノリ子さんにその話をしてみると、「私は米ヌカじゃなくて、モミガラを多めに入れてるのよ」と教えてくれました。もともとどの畑にも生のモミガラを入れる清水さんなのですが、ある時たまたまモミガラを積んでいた場所のジャガイモが「ばかきれいにできた」そう
で、「これは何かあるぞ」とひらめきました。

そこで去年は雪が降る前、ジャガイモの圃場30aに大きめのゴミ袋20袋分と、いつもよりかなり多めにモミガラを入れてみました。おかげで今年のジャガイモはピカピカです。

モミガラを入れていない土でできたジャガイモにはそうか病が出ていたので、確かな効果があります。

山口
から

ホタテ貝の微粉末でタマネギのべと病を抑える

高橋真央

周防大島町の濱中望さんは無農薬栽培のベテラン。試行錯誤の結果、べと病に負けずカチカチに引き締まった評判のいいタマネギができたと教えてくれました。

90 cm 幅のウネに、普通は4条植えるところ、濱中さんは6条植え。通常の5割増しの密植で多収をねらう作戦です。えひめA1などもよく散布し、毎年2月まではきれいに育つのですが、3月に入るとどうしても枯れてしまうことがあったそうです。その対策に今年から採用したのがホタテ貝の微粉末です。

このホタテ貝微粉末は野菜洗い用に販売されているもので、1 kg 1400 円ほど。10 a あたりにこれを1 kg、ミツカンの食酢10 l、水100 l を混ぜ、展着剤と一緒に散布します。2月の終わりから収穫直前の4月まで、1週間に

1回です。水に混ぜられるので散布もラク。来年は、より殺菌力の強いというホッキ貝の利用を考えているそうです。





山形
から

簡単、ネギの風対策にイネの防鳥ネット

渡邊紗恵子

山形市で露地ネギを2・2haつくっている
佐々木康裕さん。以前は強風でたくさんロスが

出てしまった年もあったそうです。対策として
土寄せを多めにしたりもしましたが、『現代農
業』2018年8月号に載っていた、イネの防
鳥ネットを使う方法を実践したら、効果絶大だ
つたと教えてくれました。

秋、台風が来るとわかったら、急いで畑に出
かけ、防鳥ネットをネギの頭の上に広げてふわ
つとかけておくだけです。何本かずつまとまっ
てネットの網目に刺さるので、端を留める必要
もなく設置は簡単。これで十分ネギは倒れにく
くなり、かぶせなかったところと比べるとずい
ぶん被害が抑えられました。

手作業なのですべての圃場にはかけられませ
んが、葉が大きい品種は風で倒れやすいので優
先的にかけます。ネットは毎年使い回せるので
お財布にも優しいですね。



岐阜
から

モミガラ枕がイチオシです

井上康生

大垣市の原田ヤエ子さんは、毎年モミガラ枕を作っています。生まれ育った実家では、枕は



毎年作って新しいものに替えるのが当たり前だったからです。

モミガラはもらえばタダ、布もカーテン屋さんの知り合いからもらった端切れを使うのでタダ。布は二重にしたうえに枕カバーも付けるので、モミガラのチクチク感も気になりません。大垣市の特産品の枡を作るときに出るヒノキの木クズも、もらってきて一緒に入れるとすごくいい匂いになります。

最近の枕の中身はプラスチックがほとんどです。モミガラのほうが通気性がよくて蒸れないし、身体にもいい。幅広で厚めの枕に仕上げれば、肩まですっぽり包まれて寝心地は最高。ぜひみんなにも作ってほしいと語ってくれました。



大分
から

香りが最高！

オクラのつぼみで天ぷら

柴崎俊洋

オクラは11月に入ると、花がついても開花しなかつたり、結実しなかつたりします。だったらつぼみのまま食べてしまえばいいというのが佐伯市の中島功雄^{ゆきお}さん。なかでも天ぷらがおすすめだそうです。

この天ぷら、口に入れるとオクラの香りがふわっと広がり絶品なんだとか。花を食用にするといえば、夏に咲く「花オクラ」を思い出しますが、あれよりもシャキシャキ感があるのが特徴。コツは衣を多めにつけること。衣が薄いと火が通りすぎて食感が損なわれ、ドロツとしてしまいます。

まだ青いもののほうが天ぷらに合いますが、黄色味がかつたものはお吸い物やお味噌汁に向いています。中島さん、つぼみをパック詰めして秋の直売所で売ったこともあるそうです。そ

の時は果実とまったく同じ値段をつけました。

